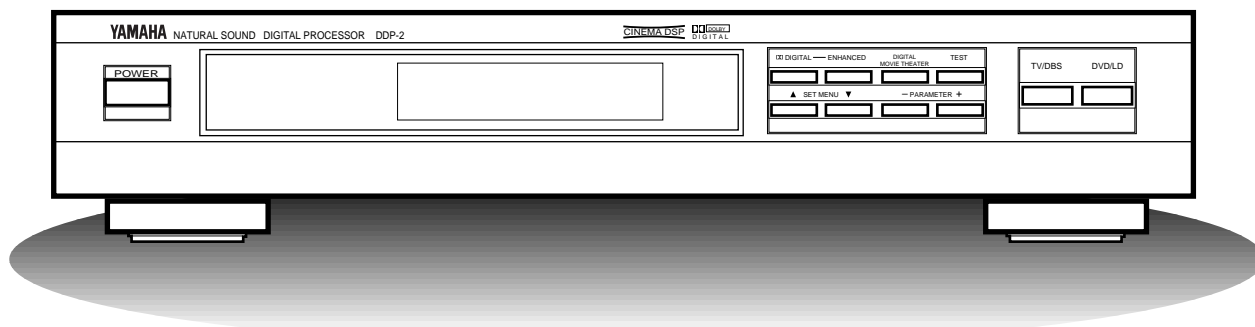


YAMAHA

NATURAL SOUND DIGITAL PROCESSOR

DDP-2

取扱説明書



このたびは、YAMAHA デジタルプロセッサ—DDP-2をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DDP-2の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用前に必ずお読みください

安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告








この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置される時		使用中に異常が発生した時	
	<p>本機に水が入ったり、本機をぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。</p> <p>電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>		<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>		<p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>
ご使用になるとき			
	<p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。</p> <p>本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>		<p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>		<p>絵表示の例</p> <p>記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。</p> <p>⊙記号は禁止の行為であることを告げるものです。</p> <p>記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。</p>



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき	
	<p>湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p> <p>本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。 ・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。 	 <p>接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p>	
	 <p>旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>	<p>旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>	
	<h3>お手入れについて</h3>		 <p>1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p>
	 <p>本機を設置する場合は、間隔をおいてください。放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。</p>	 <p>お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。</p>	
 <p>移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>			

特長

ドルビーデジタル (AC-3) デコーダー

DDP-2は、最新のシアターサウンド“ドルビーデジタル”を家庭で楽しめるドルビーデジタル (AC-3) デコーダーを搭載しています。DSP (デジタルサウンドフィールドプロセッサー) と組み合わせた音場も加えて、3種類の音場でお楽しみいただけます。

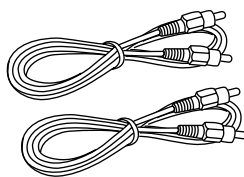
ハイクオリティ&高性能D/Aコンバーター

D/Aコンバーターには、全チャンネルに8倍オーバーサンプリングデルタシグマ方式20bit DACを搭載しています。小信号から大信号までリニアリティに優れた理想的な変換特性が得られます。また、ポストフィルターにスイッチドキャパシタフィルターと連続フィルターを採用し、耐ジッター特性や微少信号の再現性に優れています。

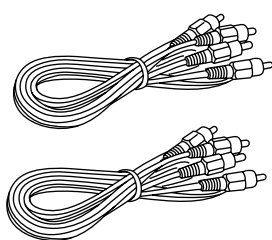
はじめに、次のことをお確かめください。

- 1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか？
- 2 付属品はすべてそろっていますか？

1ピンコード(2本)



2ピンコード(2本)



目次

安全上のご注意	2
特長	4
ドルビーデジタル (AC-3) について	5
接続のしかた	6
各部の名称とはたらき	8
再生の前に	9
再生する	13
音場プログラムの特長	14
セットメニューのパラメーター設定	15
故障かなと思ったら	18
参考仕様	19
ヤマハホットラインサービスネットワーク	裏表紙



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ドルビーデジタル (AC-3) について

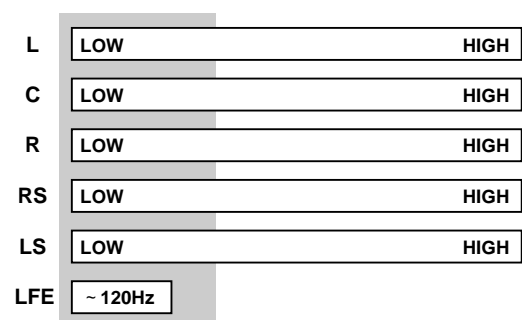
映画の音響システムを家庭で楽しむには、それに応じた再生システムが必要です。従来の劇場用ドルビーステレオの場合は、ドルビープロロジックという家庭用の規格「前方左右+前方中央+後方=計4チャンネル」が用意されました。そして新たに、劇場用ドルビーデジタルに対して家庭用に生まれた規格がドルビーデジタル (AC-3)「前方左右+前方中央+後方左右+低域効果音(LFE: 0.1チャンネル)=計5.1チャンネル」です。

ドルビー・プロ・ロジック		ドルビーデジタル (AC-3)	
2	記録チャンネル数	最大5.1	
4	再生チャンネル数	最大5.1	
前方左右 + 前方中央 + 後方	再生チャンネル構成	前方左右 + 前方中央 + 後方左右 + 低域効果音	
マトリックス処理、ドルビー・サラウンド	音声処理	ディスクリート処理、ドルビーデジタル(AC-3)エンコード、デコード	
16ビット	信号処理ビット数	20ビット	
7kHz	サラウンド音声の高域再生限界	20kHz	

低域効果音(LFE: 0.1チャンネル)について

ドルビーデジタル(AC-3)により初めて家庭に導入されるLFEは、特殊な低域効果音、あるいは5チャンネル部に収録しきれない部分の低域音として使用されます。ただし、LFEチャンネルだけが、ドルビーデジタル(AC-3)のサブウーファー用信号ではありません。下図のように全チャンネルフル帯域化により、各5チャンネルにはそれぞれの方向情報を持った低域成分が含まれており、この低域をバランスよく再生することが、映画サラウンドでの最重要課題となります。

DDP-2では、低域再生をより効果的にするため、スピーカーに応じた出力モード設定ができます。(10ページ参照)また、バランスよく再生した上で、システムの低域能力に応じてLFE量を調節することもできます。(15ページ参照)



ご注意

ドルビーデジタル(AC-3)対応のLDプレーヤーやDVDプレーヤーを本機に接続しても、通常のディスクではドルビーデジタル(AC-3)多チャンネル再生になりません。ドルビーデジタル(AC-3)対応のディスクを再生してください。

また、ドルビーデジタル(AC-3)対応ディスクでも2チャンネルのディスクがあります。ディスクの説明書をご覧ください。

接続のしかた

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。
 接続する機器によって接続方法や端子名が異なります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

再生機器の接続

DVDプレーヤーのドルビーデジタル(AC-3)出力を
デジタル インポート
 DIGITAL INPUT端子に接続します。(LDプレーヤーの接続には別売のRFデモジュレーターが必要です。詳しくは次頁をご覧ください。)

本機ではドルビーデジタル(AC-3)のデジタル信号以外は入力できませんのでご注意ください。

DVD/LD端子：ドルビーデジタル(AC-3)対応のDVDプレーヤーのデジタル出力を接続します。

TV/DBS端子：デジタル衛星放送マルチチャンネルデコーダーその他のメディアに、将来、ドルビーデジタル(AC-3)出力が装備された場合、この端子に接続します。また、DVD/LD端子と同様にドルビーデジタル(AC-3)対応DVDプレーヤーなどのデジタル出力を接続することができます。

本機の入力端子はデジタル信号をダイレクトに入力するデジタル入力端子(COAXIAL:同軸、OPTICAL:光)で、AC-3専用です。

COAXIAL端子に接続する場合はピンプラグコード(市販)を、OPTICAL端子に接続する場合は、光ファイバーケーブル(市販)を使います。

COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にドルビーデジタル信号が入力されると、OPTICAL端子からの入力信号を優先します。

本機のOPTICAL端子はEIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

PCM信号を入力するとミュート(消音)がかかります。再生機器のアナログ出力とアンプのアナログ入力は、そのまま接続しておきます。アンプに接続した録音機器でアナログ2チャンネル信号は録音できますが、6チャンネルディスクリット信号は録音できません。

アンプの接続

ドルビーデジタル(AC-3)対応6CH(5.1CH)音声入力端子装備
6チャンネル ディスクリット アウトプット
 のアンプに6CH DISCRETE OUTPUT端子を接続します。

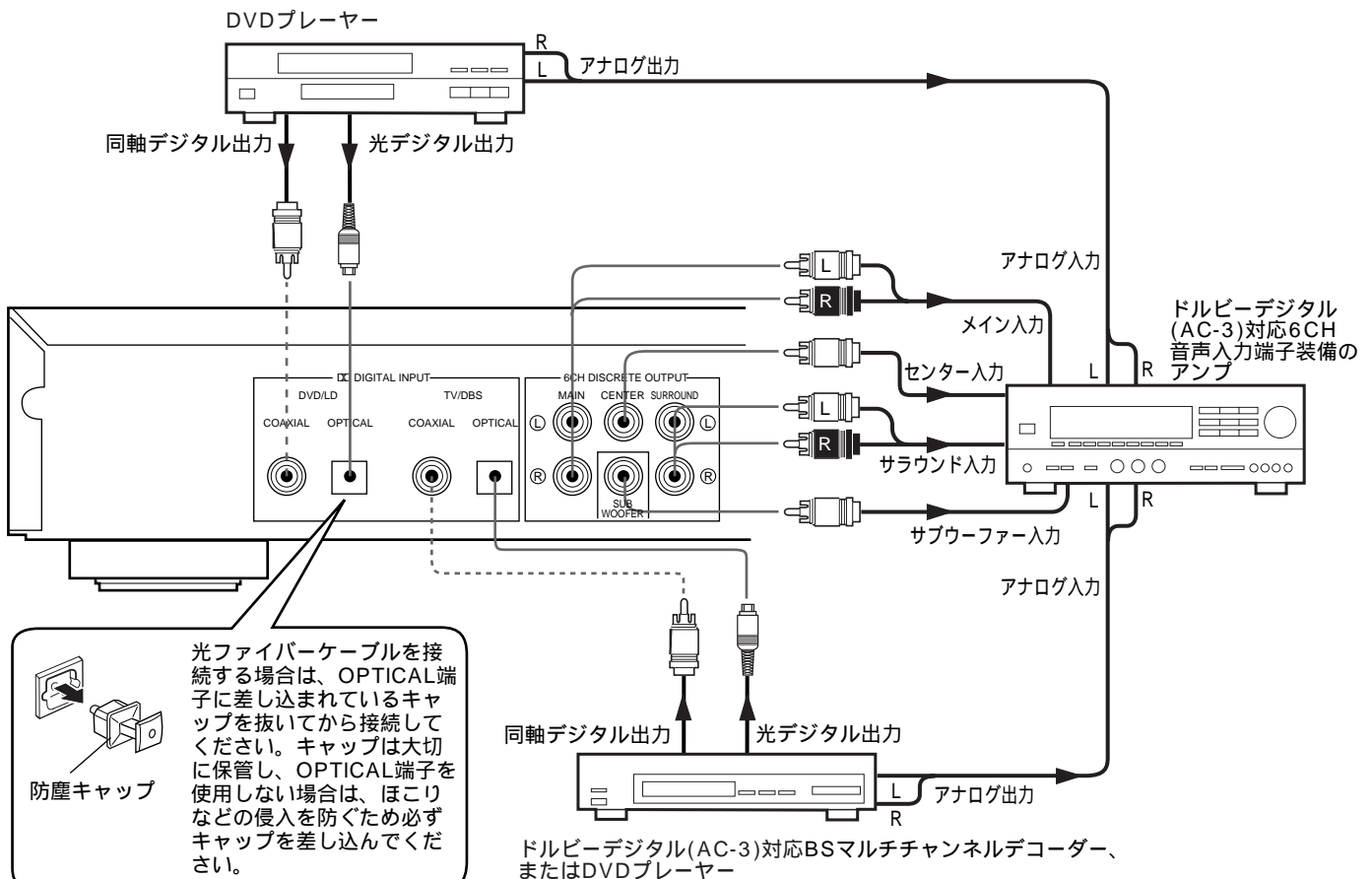
DIGITAL INPUT端子から入力したデジタル信号は、本機内蔵のD/Aコンバーターによりアナログ信号に変換され、6CH DISCRETE OUTPUT端子からアンプに出力されます。

5チャンネル音声入力のアンプでは、6CH DISCRETE OUTPUT端子のSUB WOOFER接続はできません。この場合、スピーカーモードの「4 LFE/BASS」設定をMAINにします(11ページ参照)。LFEチャンネルはメインに振り分けられ、5チャンネルで出力されます。

ピンジャックの入/出力端子は、信号別に色分けされています。

- ・音声信号の左(L)チャンネル：白色
- ・音声信号の右(R)チャンネル：赤色
- ・モノラル信号：黒色

入/出力端子の接続には、付属のピンプラグコードを使います。



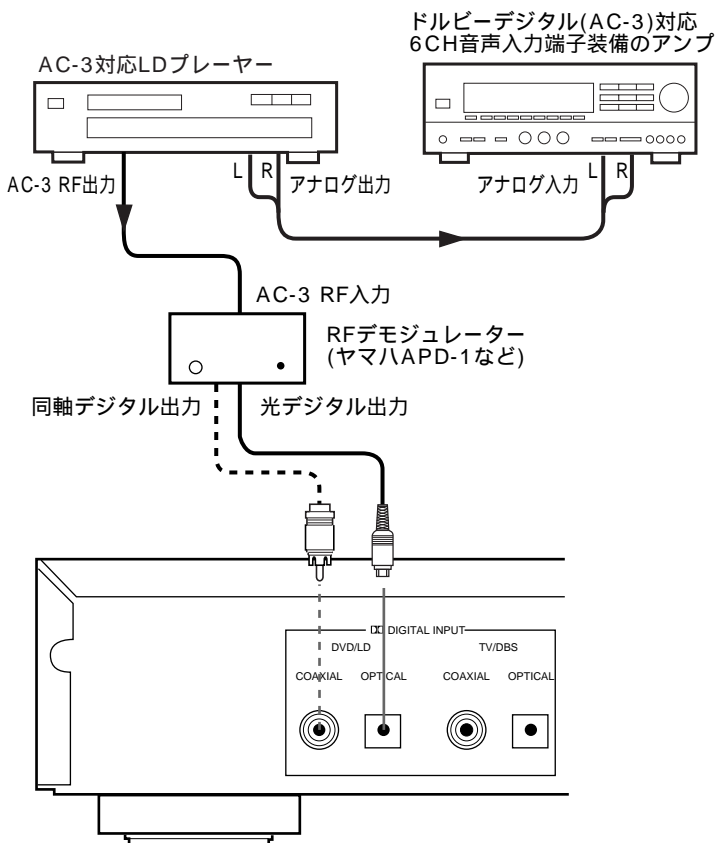
AC-3 対応LDプレーヤーの接続

AC-3対応LDプレーヤーを本機に接続するには、別売のRFデモジュレーターが必要です。

LDプレーヤーのAC-3 RF出力端子をRFデモジュレーターのAC-3 RF入力端子に接続し、RFデモジュレーターのデジタル出力(光または同軸)端子を本機のDIGITAL INPUT端子に接続します。

前頁のアンプの接続(6チャンネル ディスクリート アウトプット)も必ず行ってください。

AC-3 RF端子を接続した場合でも、LDプレーヤーのアナログ出力とアンプのアナログ入力そのまま接続しておきます。アンプに接続した録音機器でアナログ2チャンネル信号は録音できますが、6チャンネルディスクリート信号は録音できません。また、アナログ2チャンネル信号ではドルビープロロジック処理されたソースやステレオソースの再生ができますが、6チャンネルディスクリート信号ではこれらのソースの再生はできません。



COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にドルビーデジタル(AC-3)信号が入力されると、OPTICAL端子からの入力信号を優先します。

電源プラグ、電源供給コンセントの接続

電源プラグ

電源プラグは、すべての機器の接続が完了するまで、コンセントに差し込まないでください。

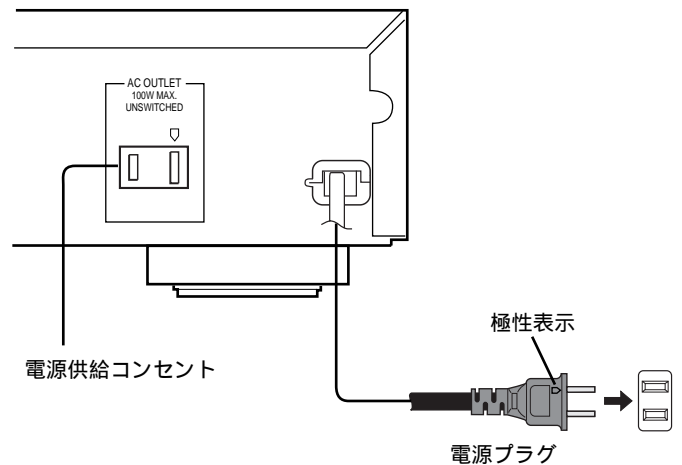
家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにプラグを差し込みます。本機の消費電力は17Wです。

本機の電源プラグには電源トランスの巻始めが極性表示されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

アンスイッチド エーシー アウトレット

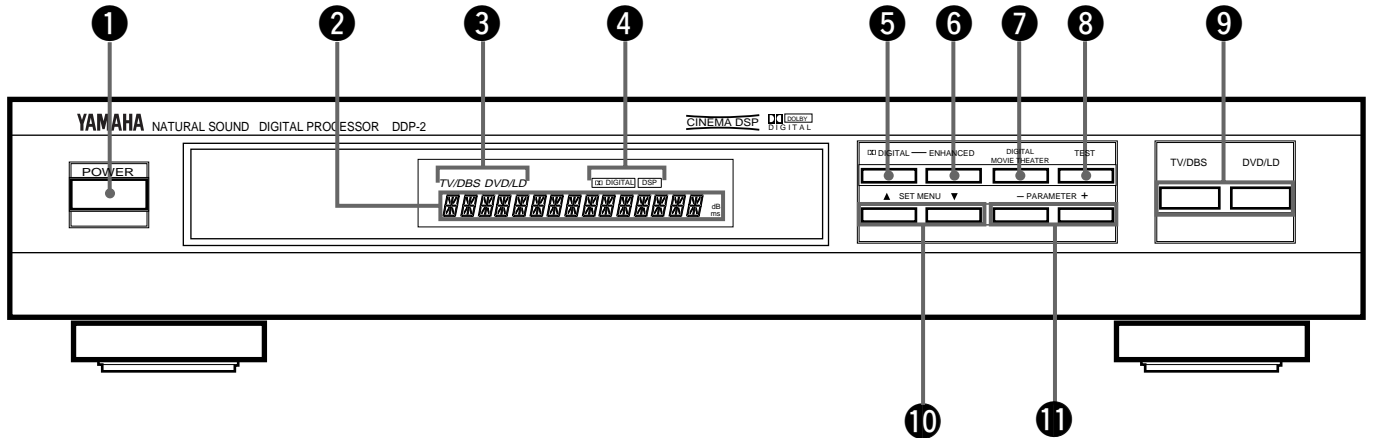
UNSWITCHED AC OUTLET(電源供給コンセント)

本機のPOWERスイッチの入/切とは無関係に、消費電力が100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。また、本機コンセントの長い方の穴が電源トランスの巻始め側になっています。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性の目安にしてください。



各部の名称とはたらき

フロントパネル



- パワー
1 POWERスイッチ
本機の電源を入/切します。
- 2** ディスプレイ
音場プログラムの名称や、セットメニューを表示します。
- 3** インพุットソースインジケーター
インพุットセレクターで選んだソースを表示します。
- 4** プロセッサーインジケーター
ドルビーデジタル(AC-3)の動作中、DSP音場処理中にそれぞれのインジケーターが点灯します。
- ドルビーデジタル
5 DIGITALキー
ドルビーデジタル(AC-3)音場を選びます。
- ドルビーデジタル エンハンスド
6 DIGITAL-ENHANCEDキー
ドルビーデジタル(AC-3)エンハンスド音場を選びます。
- デジタル ムービー シアター
7 DIGITAL MOVIE THEATERキー
デジタルムービーシアター音場を選びます。
- テスト
8 TESTキー
テストトーンを入/切します。メイン、センター、リアスピーカーレベルを調節するときに使います。
- 9** インพุットセレクター
再生ソースを選びます。
- セットメニュー
10 SET MENU / キー
セットメニューを呼び出します。
- パラメーター
11 PARAMETER - / + キー
パラメーターの値を設定します。

再生の前に

本機の音場処理機能の効果を十分に発揮させるため、ソースを再生する前にスピーカーシステムに合わせて **スピーカーモードの設定** **スピーカーレベルの調節**を行います。

スピーカーシステムについて

音場効果を十分に楽しみいただくには、スピーカーの基本構成はメイン左右(メインの音と効果音用)、サラウンド(リア左右サラウンド音と効果音用)そしてセンター(セリフなど)の合計5本のスピーカーが必要となります。さらに、重低音や臨場感を増すためにサブウーファーの追加をおすすめします。ご使用前にこの項目をお読みになり、適切なスピーカーシステムを設置してください。

サブウーファー設置の効果について

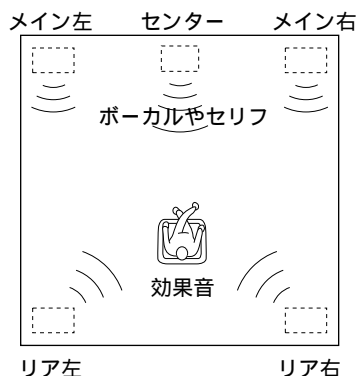
サブウーファーは各チャンネルの低音域を出力するだけでなく、ドルビーデジタル5.1チャンネル信号に含まれる低域効果音を有効的に出力します。ドルビーデジタル(AC-3)多チャンネル効果を十分に引き出すために、サブウーファーの設置をおすすめします。

スピーカーシステムを選ぶ

下記を参考にして、5スピーカーシステムまたは4スピーカーシステムのいずれかを選びます。センタースピーカーの有無に応じてセンターモードが決まります。

5スピーカーシステム(センタースピーカーを使用する)

従来の2チャンネルステレオで使用する2本の左右メインスピーカーに加えて、ドルビーデジタル(AC-3)のサラウンド効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、およびリスナーの後方に設置する左右リアスピーカーの合計5本のスピーカーを使用します。



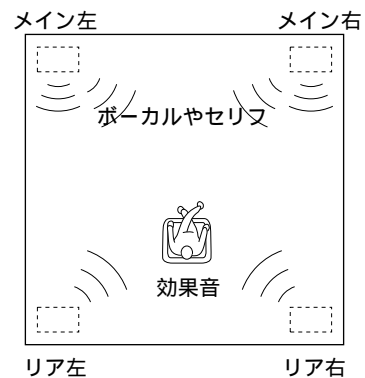
メインスピーカーの間隔が広い場合には、センタースピーカーの使用はセリフの定位などの改善に効果的です。

使用するセンタースピーカーに合わせてセンタースピーカーモードをNRML(ノーマル)またはWIDE(ワイド)に設定します(10ページ)。

4スピーカーシステム(センタースピーカーを使用しない)

左右のメインスピーカー2本と、左右のリアスピーカー2本合計4本のスピーカーを使用するシステムです。

センターチャンネル信号は、左右のメインスピーカーが再生します。

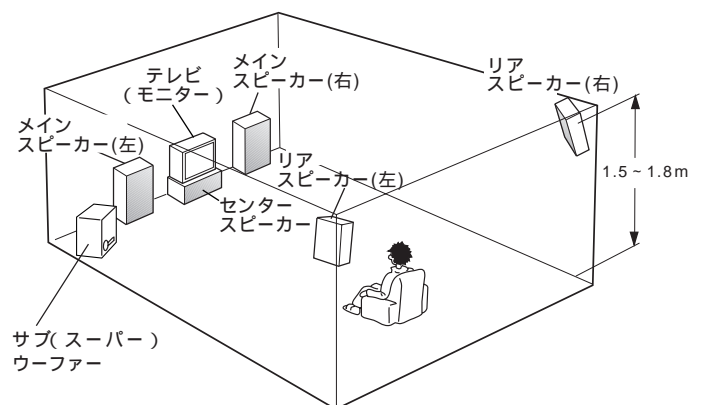


TVの両側にメインスピーカーを設置するような、スピーカーの間隔が比較的小さい場合は、センタースピーカーを使用しなくても十分な効果が得られます。

センタースピーカーモードはPHNTM(ファントム)に設定します(10ページ)。

スピーカーの配置例

スピーカーは下図のような位置関係が理想ですが、厳密に揃わなくても十分な効果が得られます。



各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声などが不自然に変化することがあります。できるだけ音色の揃ったスピーカーをお使いください。

サブウーファーはフロント側だけでなく、リア側にもう1台追加しても効果的です。スピーカーを接続するアンプの取扱説明書をご覧ください。

スピーカーモードの設定

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、4種類のスピーカーモード(センタースピーカー、リアスピーカー、メインスピーカー、バス)を設定します。

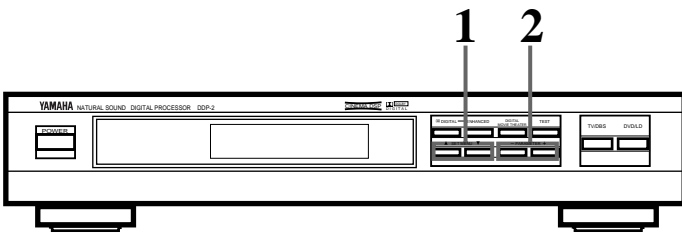
セットメニューの1~4を呼び出し、各スピーカーモードの確認および設定を行ってください。

セットメニュー1~4

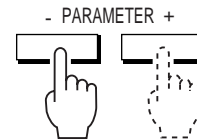
項目	設定内容	初期設定	可変範囲
1 CNTR SP	センタースピーカーの大きさや性能、有無に応じて、出力モードを選びます。	NRML	NRML/WIDE/PHNTM
2 REAR SP	リアスピーカーの大きさや性能に応じて、出力モードを選びます。	SMALL	SMALL/LARGE
3 MAIN SP	メインスピーカーの大きさや性能に応じて、出力モードを選びます。	LARGE	SMALL/LARGE
4 LFE/BASS	LFE(低域効果音)/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選びます。	SWFR	MAIN/SWFR/BOTH

セットメニュー5~9については、15ページを参照してください。

設定方法

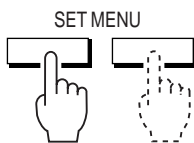


2 PARAMETER - または + キーを押して設定を変える



3 手順1、2を繰り返して1~4のスピーカーモードを設定する

1 SET MENU または キーを押して設定する項目を表示する



SET MENU キーを押すと、1 CNTR SP 2 REAR SP 3 MAIN SP 4 LFE/BASS... 8 D. RANGE 9 OUTPUTの順に項目を表示します。SET MENU キーを押すと逆順に表示します。

電源を切らない限り、前回選んだセットメニューから表示します。電源を切るとセットメニュー1から表示します。

各スピーカーモード解説

1 CNTR SP(センタースピーカーモード)

使用するセンタースピーカーに合わせてモード(NRML/WIDE/PHNTM)を選びます。

NRML(ノーマル)

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するときのモードです。センターチャンネルに出力される音のうち90Hz以下の低音域は左右のメインスピーカーが再生します。(“3メインスピーカーモード”をSMALLに、“4バスモード”をSWFRに設定した場合は、サブウーファーが再生します。)

WIDE(ワイド)

センタースピーカーにメインスピーカーと同等のスピーカーを使用するときのモードです。センターチャンネルに出力される全帯域の信号をセンタースピーカーが再生します。

PHNTM(ファントム)

センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネルに出力される信号は、左右のメインチャンネルに同じレベルで振り分けられ、左右のメインスピーカーが再生します。

2 REAR SP(リアスピーカーモード)

使用するリアスピーカーに合わせてモード(SMALL/LARGE)を選びます。

SMALL(スモール)

リアスピーカーに小型のスピーカーを使用するときのモードです。リアチャンネル(サラウンド)信号の90Hz以下の低音域はLFEチャンネルにミックスされ、バスモードの設定に応じてメインまたはサブウーファーが再生します。

LARGE(ラージ)

リアスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアスピーカーとサブウーファーを接続して使用するときのモードです。リアチャンネル(サラウンド)信号の全帯域を、そのままリアスピーカーが再生します。

3 MAIN SP(メインスピーカーモード)

使用するメインスピーカーに合わせてモード(SMALL/LARGE)を選びます。

SMALL(スモール)

メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するときのモードです。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はサブウーファーが再生します。“4バスモード”をSWFRまたはBOTHに設定してください。

サブウーファーを使わないときは、SMALLに設定しないでください。

SMALLを選んでも、バスモードがMAINになっていると、メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインL、Rスピーカーが再生します。

LARGE(ラージ)

メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するときのモードです。メインL、Rチャンネル信号の全帯域を、そのままメインL、Rスピーカーが再生します。

4 LFE/BASS(バスモード)

LFE/BASS信号を再生するスピーカーを選びます。

(LFE信号：ドルビーデジタル5.1チャンネル信号に含まれる低域効果音。8ページ参照)

MAIN(メイン)

サブウーファーを使わないときのモードです。

LFE信号と、1~3のスピーカーモードの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)はメインL、Rスピーカーが再生します。

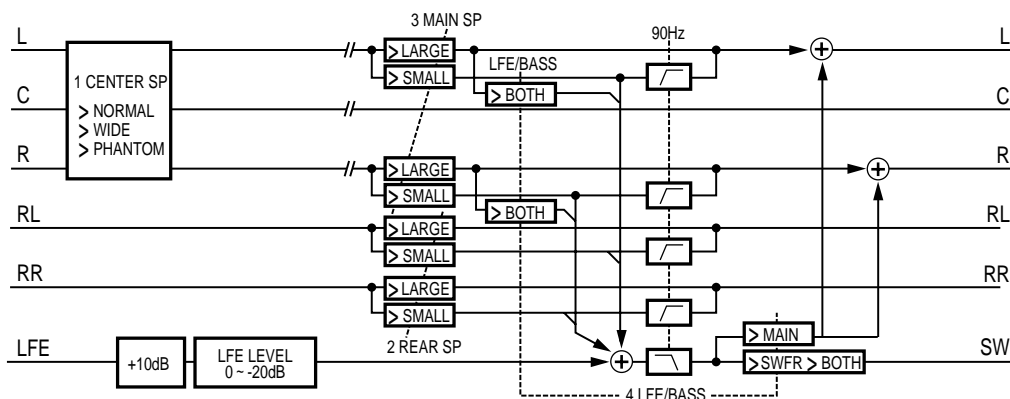
SWFR(サブウーファー)またはBOTH(ボス)

サブウーファーを使うときのモードです。

LFE信号と、1~3のスピーカーモードの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)はサブウーファーが再生します。

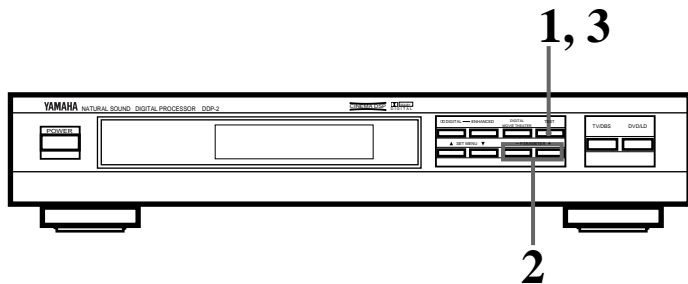
“3メインスピーカーモード”をLARGEに設定した場合、SWFRを選んでもメインスピーカーの低音域はサブウーファーに出力されません。BOTHを選ぶと、メインの低音域はメインスピーカーとサブウーファーの両方に出力されます。

スピーカーモードの信号経路

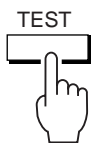


スピーカーレベルの調節

テストトーンを聞きながら、設置した各スピーカーの音量レベルが同じになるように調節します。一度調節すれば、スピーカーや部屋を変えたりしない限り、再度調節する必要はありません。実際の視聴位置で調節してください。



1 TESTキーを押す



各スピーカーからテストトーンが次の順で循環し、それぞれ約2.5秒づつ聞こえます。(音量はアンプのボリュームで調節します。)

TEST LEFT(メイン左) CENTER(センター) TEST RIGHT(メイン右) TEST R SUR(リア右) TEST L SUR(リア左) TEST LEFT(メイン左)・・・

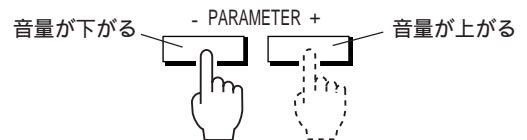
センタースピーカーモードのファントムを選んでいるときは、センターのテストトーンはメインL/Rから出ます。

テストトーンが聞こえない場合や、テストトーンの出力行チャンネル表示と出力されるスピーカーが違うときは、一度アンプのボリュームを絞って電源を切ってから、スピーカーの接続を確認してください。

2 センタースピーカーとリアスピーカーの音量を調節する

センタースピーカーの音量調節：

センタースピーカーからテストトーンが出ているときに (TEST CENTER表示のとき) PARAMETER + または - キーを押して調節する

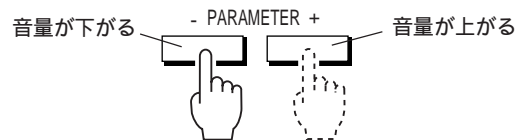


センタースピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように調節します。+6dB ~ -6dBまで調節できます。

センタースピーカーモードがファントム有的时候はセンターレベルの調節はできません。また、メインスピーカーに振り分けられたセンターチャンネルの音量も調節できません。

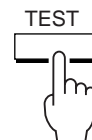
リアスピーカーの音量調節：

リア右またはリア左スピーカーからテストトーンが出ているときに (TEST R SUR表示またはTEST L SUR表示のとき) PARAMETER + または - キーを押して調節する



リアスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように調節します。左右リアスピーカーのそれぞれのレベルを+6dB ~ -6dBまで調節できます。

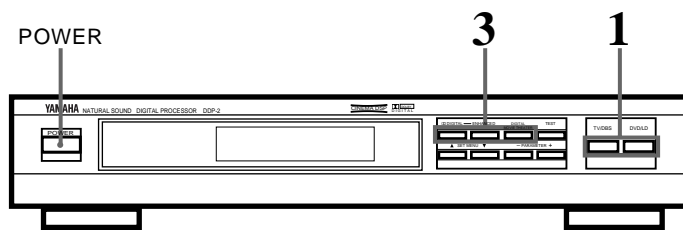
3 調節が終わったら、TESTキーを押す



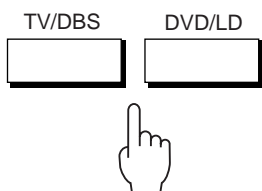
テストトーンが消えます。

再生する

POWERスイッチを押して電源を入れます。本機に接続している機器(アンプ、再生する機器など)の電源が入っていることを確認してください。



1 インプットセレクターで再生するソースを選ぶ



TV/DBSキーまたはDVD/LDキーを押します。
選んだソースのインジケータ(TV/DBSまたはDVD/LD)が点灯します。

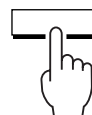
ヤマハAVアンプ(DSP-A592など)と本機を接続している場合は、アンプ付属のリモコンで入力切り換えができます。リモコンは本機に向けて操作してください。

2 ソースの再生を始める

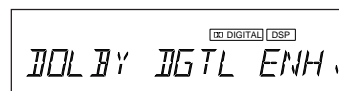
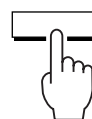
ドルビーデジタル(2チャンネル以外)の信号を入力すると、DIGITALインジケータが点灯します。
再生についてはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

3 DIGITAL、DIGITAL-ENHANCEDまたはDIGITAL MOVIE THEATERキーを押して音場プログラムを選ぶ

ドルビーデジタル
DIGITAL



ドルビーデジタルエンハンスド
— ENHANCED



デジタルムービーシアター

DIGITAL
MOVIE THEATER





各音場の特長については次頁をご覧ください。

入力信号がドルビーデジタル2チャンネルの場合は(DOLBY DGTL 2ch表示)音場効果はかからず、そのまま出力されます。


PCMオーディオ(CDなど)をはじめとしたドルビーデジタル処理されていない信号を入力しても、音は聞こえませんが、NO DOLBY DGTL表示が出ます。

音場プログラムの特長

本機には、映画館やコンサートホールで体験するような臨場感をリスニングルームに再現する3種類の音場プログラムがあります。再生するソースに合ったプログラムを選んでお楽しみください。

音場プログラム	特長と最適ソース
<small>ドルビー デジタル</small>  DIGITAL *	ドルビーデジタル(AC-3)でエンコードされたソースの再生用です。 ドルビーデジタル(AC-3)デコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをステレオに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や、定位が得られます。
<small>ドルビー デジタル エンハンスド</small>  DIGITAL- ENHANCED	ドルビーデジタル(AC-3)のサラウンド信号にDSPの音場効果を加えています。オリジナル音場の定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーをより理想的にシミュレーションした音場です。 サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。
<small>デジタル ムービー シアター</small> DIGITAL MOVIE THEATER	ドルビーデジタル(AC-3)のサラウンド信号だけでなく、メイン/センター信号にもDSPの音場効果を加え、70mmドルビーデジタルサウンドトラックにデザインされた演出効果を最適に再現します。音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場は力強い響きと、SFX、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。

実際に視聴するときは、プログラムの音場にリスニングルーム自体の音場が付加されます。プログラムの音場を楽しむには、リスニングルームをできるだけデッドに(反射音がないように)調整しましょう。

* ドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、AC-3、PRO LOGIC及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの商標です。著作権1992年ドルビーラボラトリーズインコーポレーティッド。不許複製。

ドルビーデジタル(AC-3)とCINEMA DSPの音場について

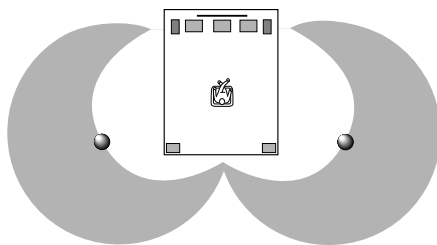
映画の最新音響再生方式ドルビーデジタル(AC-3)は、映画館の広い空間と多数のサラウンドスピーカーが周囲に配された環境で再生することを前提としています。


しかし、映画館と再生環境の異なる家庭で、映画のサウンドデザイナーの意図までも再生するのは困難です。

そこで、ドルビーデジタル(AC-3)とヤマハ独自のDSP技術を融合させた“CINEMA DSP”が非常に効果的です。ご家庭でも映画館のような雄大な音場感や臨場感と迫力あふれるシアターサウンドを再生します。

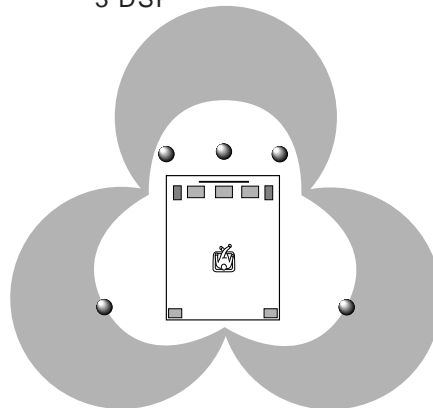
ヤマハ CINEMA DSP はドルビーデジタルとヤマハDSP技術の融合により生み出されたプログラムの登録商標です。

ドルビーデジタル(AC-3)+
2 DSP



ドルビーデジタル(AC-3)の音場に、左右後方のDSP音場を加えます。音場の広がりやサラウンド効果を高めます。本機のにより、この音場が得られます。

ドルビーデジタル(AC-3)+
3 DSP



ドルビーデジタル(AC-3)の音場に、前面と左右後方のDSP音場を加えます。音場の広がりはもちろん、優れたチャンネル特性を損なうことなく高いサラウンド効果を生み出します。現在のところ、最も理想的な家庭でのシアターサウンドと言えるでしょう。本機のDIGITAL MOVIE THEATERにより、この音場が得られます。

セットメニューのパラメーター設定

本機には、9項目のセットメニューがあります。使用するスピーカーシステムに合わせて設定するスピーカーモード(10ページ)や、ディレイタイム、ダイナミックレンジなどをお好みに合わせて変更できます。必要に応じてセットメニューを呼び出し、設定します。

再生中もセットメニューの設定を行えます。

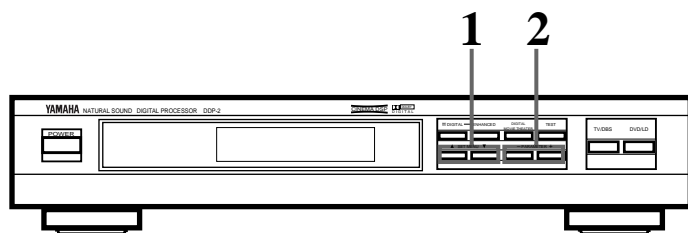
項目	設定内容	可変範囲	初期値
1 <small>センタースピーカー</small> CNTR SP	センタースピーカーの大きさ、性能や有無に応じて出力モードを選択します。(P.10参照)	NRML/WIDE/PHNTM	NRML
2 <small>リアスピーカー</small> REAR SP	リアスピーカーの大きさ、性能に合った出力モードを選択します。(P.10参照)	SMALL/LARGE	SMALL
3 <small>メインスピーカー</small> MAIN SP	メインスピーカーの大きさ、性能に合った出力モードを選択します。(P.10参照)	SMALL/LARGE	LARGE
4 <small>エルエフイー / バス</small> LFE/BASS	LFEをはじめとした低音成分を出力するスピーカーを選択します。(P.10参照)	MAIN/SWFR/BOTH	SWFR
5 <small>エルエフイー レベル</small> LFE LEVEL	LFE信号の再生レベルを設定します。	- 20 ~ 0dB	0dB
6 <small>センター ディレイ</small> CNTR DELAY	センター信号出力のディレイタイムを設定します。	0 ~ 5ms	0ms
7 <small>サラウンド ディレイ</small> SUR. DELAY	サラウンド信号出力のディレイタイムを設定します。	0 ~ 15ms	15ms
8 <small>ダイナミックレンジ</small> D. RANGE	ドルビーデジタル(AC-3)再生時のダイナミックレンジを設定します。	MAX/STD/MIN	MAX
9. <small>アウトプット</small> OUTPUT	すべてのチャンネルの出力レベルを調節します。	- 9 ~ + 9dB	0dB

メモ

セットメニューで設定したパラメーター値は、すべての音場プログラムに共通となります。

セットメニューのパラメーター設定

設定方法



セットメニューの設定内容

- 1 CNTR SP(センタースピーカーモード)
- 2 REAR SP(リアスピーカーモード)
- 3 MAIN SP(メインスピーカーモード)
- 4 LFE/BASS(バスモード)

セットメニュー1~4はスピーカーの種類に合わせた出力モードを設定します。(10ページ参照)

5 LFE LEVEL(LFE レベル)

LFE信号の再生レベルを設定します。

LFE信号は、ドルビーデジタル(AC-3)ソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。ドルビー社の推奨により、LFE LEVEL 0dB時は、他の5chのレベルより+10dBに設定されています。使用するサブウーファーなどの能力に応じて、LFE LEVELを調節してください。

6 CNTR DELAY(センターディレイ)

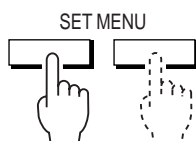
センター信号出力のディレイタイム(遅延時間)を設定します。

通常センタースピーカーはL,Rスピーカーと同一線上に置きますが、本来ならば同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想的です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、等価的にリスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。目安として1ms増すと約30cm遠ざかったこととなります。センターディレイは、特にノーマルモードでセンタースピーカーを使用している時、セリフの量感に効果があります。

7 SUR. DELAY(サラウンドディレイ)

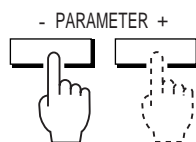
サラウンド信号成分のディレイタイム(遅延時間)を設定します。値を大きくするほどサラウンド音が遅れて発生します。

1 SET MENU または キーを押して設定する項目を表示する



SET MENU キーを押すと、1 CNTR SP 2 REAR SP 3 MAIN SP 4 LFE/BASS... 8 D. RANGE 9 OUTPUTの順に項目を表示します。SET MENU キーを押すと逆順に表示します。電源を切らない限り、前回選んだセットメニューから表示します。電源を切るとセットメニュー1から表示します。

2 PARAMETER - または + キーを押して設定を変える



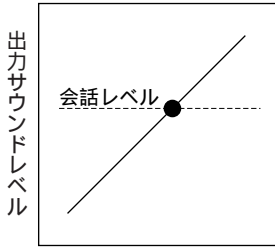
3 手順1、2を繰り返して、必要な項目のパラメーターを設定する

8 D. RANGE(ダイナミックレンジ)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを、MAX/STD/MINの3種類から選びます。

MAX

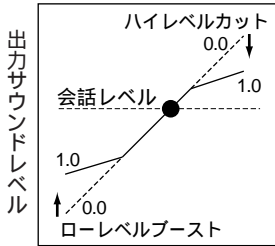
映画館そのままのダイナミックレンジです。



本格的なホームシアター向けのオリジナルサウンドレベルです。映画オリジナルのダイナミックサウンドが楽しめます。

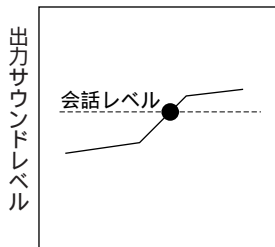
STD(STANDARD)

ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。ハイレベルカットとローレベルブーストを1.0に設定していません。



MIN

小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。



ダイナミックレンジを圧縮し、小音量でも聴き取りやすく楽しめるモードです。深夜などに最適です。

ご注意

ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がることがあります。ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

9 OUTPUT(アウトプット)

本機を通して出力するDVDプレーヤー、LDプレーヤーなどの出力レベルが変えられます。他の機器の出力レベルとバラつかないように補正できます。

メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、パラメーター、セットメニュー、レベルなどの設定内容はメモリー(記憶)されています。本機では、メモリー内容を保持するために、特殊なコンデンサーを内蔵してバックアップしています。約2週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし、2週間を過ぎると、コンデンサーが放電し、メモリー内容が消えることがあります。このような場合は、再度、設定を行ってください。

メモ

電源コードをコンセントに接続し、電源が供給されている場合は、電源を切ってもメモリー内容は常にバックアップされています。

バックアップ用コンデンサーが完全に放電した場合、電源コードをコンセントに接続後、約8時間でコンデンサーの充電が完了します。

故障かなと思ったら

本機を使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められましたら、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

本機を使用中に強い外来ノイズ(落雷、過大な静電気など)を受けたり、誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、本機の電源を切り電源プラグをコンセントから抜き、約30秒後に再びつないで操作し直してください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください
音が出ない	インプットセレクターが再生したい入力ソースにセットされていない	再生したい入力ソースのインプットセレクターを押してください
	接続が不完全	接続を確認してください
	ボリュームが絞られている	アンプのボリュームで音量を上げてください
	ドルビーデジタル処理されていない信号を入力している	ドルビーデジタル処理されたソースを再生してください
センタースピーカーから音が出ない	センタースピーカーモードがPHNTMになっている	セットメニューのセンタースピーカーモードを正しくセットしてください
	ソースによっては、ドルビーデジタル処理されていてもセンター成分を含まないものもあります	
リアスピーカーから音が出ない	ソースによっては、ドルビーデジタル処理されていてもサラウンド(リア)成分を含まないものもあります	
本機を使用しているとチューナーやテレビから雑音が出る	本機とチューナーやテレビの設置場所が近すぎる	本機はデジタル信号を扱うので、電波を扱う機器と離して設置してください
本機に接続している機器にヘッドホン接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源が切れている	必ず本機の電源を入れてください

参考仕様

入力端子 2
DVD/LD (OPTICAL, COAXIAL)
TV/DBS (OPTICAL, COAXIAL)

出力端子 6
MAIN L/R
CENTER
SURROUND L/R
SUB WOOFER

設定 セットメニュー

項目	可変範囲	初期設定
1 CNTR SP	NRML/WIDE/PHNTM	NRML
2 REAR SP	SMALL/LARGE	SMALL
3 MAIN SP	SMALL/LARGE	LARGE
4 LFE/BASS	MAIN/SWFR/BOTH	SWFR
5 LFE LEVEL	- 20 ~ 0dB	0
6 CNTR DELAY	0 ~ 5ms	0
7 SUR. DELAY	0 ~ 15ms	15
8 D. RANGE	MAX/STD/MIN	MAX
9 OUTPUT	- 9 ~ + 9dB	0

プログラム数 3
DOLBY DIGITAL
DOLBY DIGITAL ENHANCED
DIGITAL MOVIE THEATER

出力電圧/出力インピーダンス
MAIN L/R, CENTER, SURROUND L/R
1kHz, 0dB 入力 2V/1.2k
SUB WOOFER
50Hz, 0dB 入力 6V/1.2k

入力インピーダンス
COAXIAL 75

周波数特性(20Hz ~ 20kHz)
MAIN L/R, CENTER, SURROUND L/R (LARGE設定)
0 ± 1dB

フィルター特性
MAIN L/R, CENTER, SURROUND L/R (SMALL設定)
(H. P. F) fc=90Hz, 12dB/oct
SUB WOOFER
(L. P. F) fc=90Hz, 24dB/oct

全高調波歪率
MAIN L/R, CENTER, SURROUND L/R (1kHz) 0.01%

SUB WOOFER (50Hz) 0.01%

信号対雑音比 (IHF-A) MAIN L/R 105dB

電源電圧 AC100V 50/60Hz

消費電力 17W

ACアウトレット UNSWITCHED × 1
100W MAX

寸法(W × H × D) 435 × 86 × 273mm

重量 4.0kg

*仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-0810 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100
- 東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL (03) 5488 - 6625
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL (0878) 22 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
営業部 TEL (053) 460 - 3451
品質保証室 TEL (053) 460 - 3405
住所および電話番号は変更になることがあります。